

一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成三十年十一月十二月分）

選者 高山俳壇 高野悠子 先生

特選天 搾乳の牛舎けぶりて霜の朝 群馬県 山口岩美

牛舎けぶる様子が下五の季語によっていつそう際立つ。
搾乳の朝の冷たい空気が漂ふ。秀吟。

特選地 秋寂びや数寄屋造の違ひ棚 小布施町 池田紫艶

秋寂びの詠嘆から始まり中七下五の描写で日本の木造家
屋の静かな佇まいが浮かぶ品格ある秀吟。

特選人 枝豆の飛んで食卓賑はへり 群馬県 田村洋子

核家族がすすむ中嫁いだ娘が孫と一緒に里帰りしたのだ
ろうか。枝豆の飛んでと表現した所にセンスが光った。
着眼点もよい。

入選 遠花火寄り添ひ眺む三姉妹 群馬県 竹刈てる子

入選 広告の紙飛行機と赤とんぼ 群馬県 竹刈千恵子

入選 一冊を夜長の友としたりけり 群馬県 仙田美名代

入選 小鳥くる野にも山にも我が家にも 群馬県 土屋はじめ

入選 花野ゆく眼下に湖の光りをり 長野市 飯嶋壽子

入選 喰へること知りつ躊躇ふ海鼠かな 宮城県 福田良光

入選 竜の玉父がほつりと母のこと 愛知県 平野辰美

入選 水音の多き山里星月夜 長野市 山崎あさみ